

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-143065

(P2002-143065A)

(43)公開日 平成14年5月21日(2002.5.21)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード(参考)
A 4 7 L 13/24		A 4 7 L 13/24	A 3 B 0 7 4
// A 4 7 L 13/256		13/256	

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 12 頁)

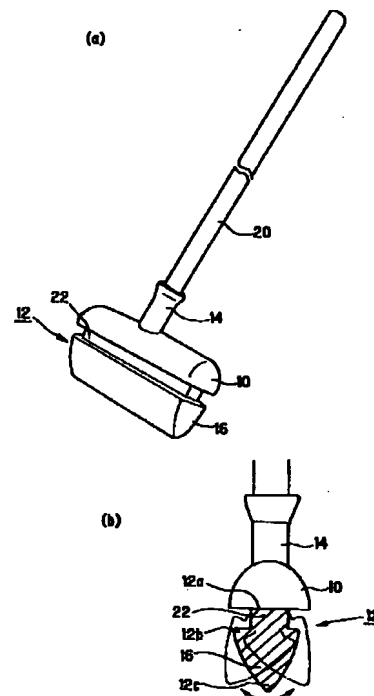
(21)出願番号	特願2001-252989(P2001-252989)	(71)出願人	000006769 ライオン株式会社 東京都墨田区本所1丁目3番7号
(22)出願日	平成13年8月23日(2001.8.23)	(72)発明者	市川 真 東京都墨田区本所一丁目3番7号 ライオン株式会社内
(31)優先権主張番号	特願2000-261550(P2000-261550)	(72)発明者	小泉 茂 東京都墨田区本所一丁目3番7号 ライオン株式会社内
(32)優先日	平成12年8月30日(2000.8.30)	(74)代理人	100112335 弁理士 藤本 英介 (外2名)
(33)優先権主張国	日本 (J P)	Fターム(参考)	3B074 AA02 AA03 AA05 AA08 AB01 E001

(54)【発明の名称】 清掃具および清掃シート

(57)【要約】

【課題】 清掃シートを無駄なく使用でき、使い易い清掃具を提供する。

【解決手段】 清掃部12は、断面形状が基台部側12aよりも中央部12bが厚くなりかつ該中央部12bから先端部へかけて徐々に細くなるよう弾性素材で形成され、清掃部12の基台部側尾端12aから中央部12bにかけて屈曲可能になり(屈曲部22)、この清掃部12の中央部12bから先端部12cを外周面に清掃シート18を取り付けるシート装着部16とし、該装着部16に清掃シート18を取り付けた状態で床面などの対象部の清掃をするようにしたものである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 基台部に清掃部が取り付けられる清掃具において、清掃部は、断面形状が少なくとも中央部から先端部へかけて徐々に細くなるよう弾性素材で形成され、この清掃部の基台部側端から中央部にかけて屈曲可能になり、中央部から先端部を外周面に清掃シートを取り付けるシート装着部とし、該装着部に清掃シートを取り付けた状態で対象部の清掃をするようにしたことを特徴とする清掃具。

【請求項2】 清掃部の断面形状が少なくとも中央部から先端部へかけて徐々に細くなるよう形成された清掃部を有する清掃具において、清掃部はその基台部側端から先端部の外周面に清掃シートを取り付けるシート装着部とし、清掃部の一部もしくは清掃部以外の部分に清掃シートの留め部を少なくとも1つ有し、該シート留め部は少なくとも1つの鋭角の突起に清掃シートを係止するものであり、該シート留め部に清掃シートを係止した状態で対象部の清掃をするようにしたことを特徴とする清掃具。

【請求項3】 清掃部の断面形状が少なくとも中央部から先端部へかけて徐々に細くなるよう形成された清掃部を有する清掃具において、清掃部はその基台部側端から先端部の外周面に清掃シートを取り付けるシート装着部とし、清掃部の一部もしくは清掃部以外の部分に清掃シートの留め部を少なくとも1つ有し、該シート留め部は弾性板状部材が1以上のスリットで区画形成された複数の爪部間にシートを挟んで係止するものであり、前記装着部に清掃シートを取付けた前記シート留め部に清掃シートを係止した状態で対象部の清掃をするようにしたことを特徴とする清掃具。

【請求項4】 清掃部の断面形状が少なくとも中央部から先端部へかけて徐々に細くなるよう形成された清掃部を有する清掃具において、清掃シートは、各清掃面に対向した状態で清掃部に装着されるシートであり、かつ、装着状態で清掃部先端部に対応する部分から前方部にはシートが複数重ねられた部分を有することを特徴とする清掃シート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、清掃シートを取り付けて拭き掃除・掃き掃除などに用いる清掃具および清掃シートに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、清掃用のシート（清掃シート）を取り付けて掃除に用いる清掃具としては、特開平10-276957号公報に記載されるように、取付け基板の周囲に復元力を有するシート状のウレタン発泡体を二つ折りにして取り付けられた掻き出し部を設け、全体を厚板状に形成、この掻き出し部の周面に掃除シートを取り付けて掃除するようにしたものがある。また、特開平7-8

434号公報や、特開平7-303589号公報のように弾性素材をモップや清掃用シートの取付け部材にしたものがある。

【0003】

【発明の解決しようとする課題】 しかしながら、上記従来の掃除具で清掃していても、基部近くは清掃シートを清掃対象面に押し当てることができないので、清掃シートの一部しか清掃面に当たらなくなる。このため、清掃シートの使用しない部分が多く無駄が多くなり、また、すぐに清掃シートを交換する必要性が生じていた。また、清掃部に清掃シートを取り付けて、清掃部の線状の角部で清掃シートを押し付けたときには、その角部に対応して線状に清掃シートで埃や汚れを取るが、埃や汚れの付く面積が小さいので直ぐに拭き取りが悪くなる。このため、清掃シートの取り付け位置を変えたり、清掃シート自体を取り換えたりする必要性が頻繁に生じるので、清掃シートの使用しない部分が多く無駄が多くなり、また、すぐに清掃シートを交換する必要性が生じ手間がかかるものであった。また、清掃用シートを取り付けて用いる清掃具では様々なシートの留め方が提案されているが、途中で外れるなどしてシートが十分に使用できないことがあった。例えば、シートを清掃部にスリットを形成してシートを差し込むタイプのもものでは（実開平5-5061号）では、シートが清掃時に摩擦を受けることで力が加わり、抜け取れるときがあった。また、シート装着具を用いてシートを差し込むタイプのもものでは（実開平6-62960号）、抜け取れる問題は軽減するが指に当たるなどの不具合がある。さらには、シート装着具を用いてシートを挟むタイプのもものは、抜け取れる問題は軽減するが装着に手間が掛かったり、スプリング式のもものでは装着に手指に力が必要になる。

【0004】 なお、清掃シートの押し当てのみでは、床面のごみの掃き寄せや掃き出しができず、不都合であった。また、前記公報記載の技術では、弾性素材の取付け部材では特開平7-303589号公報の図6に示されるように、押し付けによって全体的に曲がるが取付け部材の弾性力が強いと力の弱いユーザーではこのような使用状態にしにくく、一方、取付け部材の弾性力を弱くするとシートの押し当て力が弱くなり、拭きとり清掃がうまくできない状態になる。また、取付け部材は、全体的に無理に曲げることになるので耐久性が低い恐れがある。

【0005】 本発明は、前記の問題点を鑑みてなされたものであって、清掃シートを無駄なく使用でき、かつ取り換えの頻度を減らせる、使い易い清掃具および清掃シートを提供することを課題とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明は、前記課題を解決するため、各請求項の発明は次の構成を有する。すなわち、請求項1の発明は、剛性の有る基台部に清掃部が

10

20

30

40

50

取り付けられた清掃具において、清掃部は断面形状が基台部側よりも中央部が厚くなりかつ該中央部から先端部へかけて徐々に（例えばほぼテーパ状に）細くなるよう弾性体で形成され、この清掃部の基台部側端から中央部にかけて屈曲可能になり該清掃部の中央部から先端部を外周面に清掃シートを取り付けるシート装着部とし、該装着部に清掃シートを取り付けた状態で対象部の清掃をするようにしたことを特徴とする清掃具である。

【0007】本発明によれば、清掃部は断面形状で基台部側よりも中央部が厚くなるので中央部よりも基台部側が曲がり易く、「腰」のある使用状態になる。それと共に中央部が曲がりにくくなるので中央部から先が一体で揺動可能になり、床面などの対象面上に箒のようにして移動させることができ、ゴミの掃き寄せ・掃き出しの用に供することができる。また、前記の中央部から先端部へかけての装着部は先端部へかけて徐々に細くなるので両側面がほぼ斜めのテーパ面になる。このため、シートを装着した状態で清掃部を清掃対象面に押し付けると、基台部側が曲がり、清掃部側面でシートを清掃対象面に十分に押し当てることができ、シートの全面を十分に清掃の用に供することが可能になる。したがって、シートを無駄なく使用できる。

【0008】また、請求項2の発明では、清掃部の断面形状が少なくとも中央部から先端部へかけて徐々に細くなるよう形成された清掃部を有する清掃具において、清掃部はその基台部側端から先端部の外周面に清掃シートを取り付けるシート装着部とし、清掃部の一部もしくは清掃部以外の部分に清掃シートの留め部を少なくとも1つ有し、該シート留め部は少なくとも1つの鋭角の突起に清掃シートを係止するものであり、該シート留め部に清掃シートを係止した状態で対象部の清掃をするようにしたことを特徴とする清掃具である。

【0009】この発明によれば、清掃部または基台部に1つ以上の鋭角な突起を有するシート留め部を1つ以上設けて、この留め部の突起にシートを引っ掛けてシートを確実に固定することができる。したがって、シートが使用途中で外れて使用できなくなることが無く、シートを無駄なく使用できる。また、シートをワンタッチで留めることができ、便利である。

【0010】また、請求項3の発明は、清掃部の断面形状が少なくとも中央部から先端部へかけて徐々に細くなるよう形成された清掃部を有する清掃具において、清掃部はその基台部側端から先端部の外周面に清掃シートを取り付けるシート装着部とし、清掃部の一部もしくは清掃部以外の部分に清掃シートの留め部を少なくとも1つ有し、該シート留め部は弾性板状部材が1以上のスリットで区画形成された複数の爪部間にシートを挟んで係止するものであり、前記装着部に清掃シートを取付けかつ前記シート留め部に清掃シートを係止した状態で対象部の清掃をするようにしたことを特徴とする清掃具であ

る。

【0011】この発明によれば、清掃部の一部もしくは清掃部以外の部分に清掃シートを留める留め部を少なくとも一つ有し、この留め部でシートを確実に固定することができる。したがって、シートが使用途中で外れて使用できなくなることが無く、シートを無駄なく使用できる。また、シートをワンタッチで留めることができ、便利である。また、前記のシート留め部は弾性板状部材が1以上のスリットで区画形成された複数の爪部間にシートを挟んで係止するので、板状部材にスリットが形成されているという簡単な構造であるので、安価かつ簡単に作成できる。

【0012】なお、前記留め部の掃除具への取付けは、取付け部に穴（貫通穴あるいは未貫通穴のいずれでもよい）を形成しその穴を塞ぐように弾性板状部材を装着する。この場合に、この板状部材そのものを直接的に穴に取り付けるようにしても、あるいは、板状部材から筒状あるいは楔状の挿着部材を一体または別体に延ばして、その挿着部材を前記穴に挿入し取り付けるとしても、いずれでも良い。

【0013】また、請求項4の発明は、清掃部の断面形状が少なくとも中央部から先端部へかけて徐々に細くなるよう形成された清掃部を有する清掃具において、清掃シートは、各清掃面に対向した状態で清掃部に装着されるシートであり、かつ、装着状態で清掃部先端部に対応する部分から前方部にはシートが複数重ねられた部分を有することを特徴とする清掃シートである。

【0014】この発明によれば、清掃時において、清掃対象部に一枚のシートだけではなく複数枚のシートが当たり効率良く清掃ができる。シートが重ねられた部分は1枚のシートを折り重ねて接着・熱融着・縫製・綴じるなど種々の方法で止めたものにすることが好適である。

【0015】なお、基台部にちりとりを一体に着脱自在に装着すれば、必要に応じてちりとりを外して、掃き集めたゴミをちりとりで掃き集めて該ゴミを捨てることが容易にできる。このようにすれば、別体のちりとりを用意しなくても好きなときにちりとりを用いることができ、掃除作業性が向上する。

【0016】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施形態を詳細に説明する。図1は実施形態1に係る清掃具の外観図、図2は要部説明図、図3はシート取付け部の説明図図4は使用状態説明図、図5は他の実施形態の説明図である。

【0017】図1、図2に示すように、剛性の有る基台部10の一侧（下部側）に清掃部12が取り付けられた清掃具であり、基台部10の他側（上部側）には筒状に立設した取付け部14に柄20を差し込んで固定するようになっている。

【0018】前記清掃部12は、断面形状が基台部側の

尾端部12aよりも中央部12bが厚くなりかつ該中央部12bから先端部12cへかけて徐々に(例えばほぼテーパー状に)細くなるよう、清掃部12全体で断面矢印形状に弾性体で一体に形成されたものである。そして、この清掃部12の基台部側尾端12aから中央部12bにかけて屈曲可能になり(この部分を以下屈曲部22という)、この清掃部12の中央部12bから先端部12cを外周面に清掃シート18を取り付けるシート装着部16とし、該装着部16に清掃シート18を取り付けた状態で床面などの対象部の清掃をするようにしたものである。

【0019】図1、図2に示すように、前記清掃部12は、断面矢印形状であるが、先端部12cがとがって稜線の形成された断面矢印形状になっている。なお、本発明の清掃部はこの実施形態の断面形状に限定されず、図5に示す他の実施形態のように、(a)に示す尾端12aから中央部12bまで徐々に広がるコマ状、(b)に示す矢印形状の先端部12cを丸くしたもの、(c)に示す長い矢印状、(d)に長いコマ状(e)に示す中央部が広がった矢印状など種々に変形実施できる。また、先端部は、二点鎖線で示すように、稜線を無くして丸くしてもよい。

【0020】前記清掃部12は、弾性素材(発泡ウレタン、ゴム、エラストマー、発泡EVA、発泡ポリエチレンなど)を用いることができる。また、シート装着部16と屈曲部22とは同一素材で一体成形しても、別体のものを固着して一体化してもよい。

【0021】清掃部12へのシート18の取付けは、図2に示すように、装着部16にシート18を巻きつけて適宜の方法で固定する。装着方法としては、図3に示すように、清掃部12または基台部10に1つ以上の鋭角な突起26を有するシート留め部24を1つ以上設けて、この留め部24でシート18を固定する。

【0022】実施形態のシート留め部24は、装着部の肩部に4箇所設けており、各留め部24は、概略矩形(その他の形状でもよい)のプレートの一辺を切り込んで凹部28を形成したものであり、(e)や(d)に示すように、この凹部28に向けて2乃至それ以上の個数の突起26を突出形成したものである。凹部28は指が入る大きさであり、前記留め部24は、突起26の有る部分を残して清掃部12に固定している。また、特に、図3(b)に示すように、z軸方向を0°としてz-y面で角度を動かしたとき、表面側から裏面側にかけて90°~270°に突起が延びているのが好適である。さらに、135°~225°がよい。そして、(e)と(f)に示すように、指で凹部28で突起26に挿すようにシート18を押し込み突起26にシート18を引っ掛けて、かつ、留め部24と清掃部12間で挟みこんで固定する。

【0023】したがって、清掃時にシートが引っ張られ

るときにはシートが前記突起26に引っ掛かりシートが外れるのを防ぐ。また、シートが撓むときには挟み込みと引っ掛かりでシートが外れるのを防ぐ。この他、清掃部が柔軟性を有していてもシートは外れない。また、清掃部の形状によらずに、シートが装着でき、シートが外れない。

【0024】他の取付け方法としては、図3(a)に示すように、シート装着部16の段状に張り出した部分の上面部に切り込み30を入れて、その切り込み30にシート18を差し込んで固定する。

【0025】さらには、基台部10にちりとり32を一体に着脱自在に装着することが好ましい。この場合、図2の(c)に示すように、基台部10から取付け部14にかけてほぼT字形状に凹所34を設け、この凹所34に対応してほぼT字形状ちりとり32を形成しておき、その凹所34にちりとり32を取り外し可能にはめ込んで取付ける。

【0026】なお、柄20は清掃具の取容性向上の観点から取付け部14に着脱可能に取り付けることが好ましく、さらには、柄20は複数の分割した部分をつなぎ合わせて不使用時にばらして取容性をさらに向上させることができる。また、基台部10への清掃部12の取付け固定は種々の方法で行い得る。

【0027】実施形態の清掃具においては、図1に示すように、清掃部12全体で断面矢印形状に弾性体で形成され、この清掃部12は断面形状が基台部側尾端12aよりも中央部12bが厚くなるので中央部よりも基台部側屈曲部22が曲がり易く、弾性素材の選定や屈曲部22の厚さ設定により適度の「腰」のある使用状態になる。また、前記の中央部12bから先端部12cへかけての装着部16は先端部へかけて徐々に細くなるので側面が斜めになる。このため、図4に種種に示すように、シート18を装着した状態で清掃部12を清掃対象面に押し付けると、基台部側屈曲部22が曲がり、清掃部12側面でシート18を清掃対象面に十分に押し当てることができ、シート18を十分に清掃の用に供することができる。

【0028】すなわち、前記清掃具の使用態様としては、図4(a)のように清掃部12を屈曲部22から曲げて片手で拭くように床面を拭く。図4(b)に示すように、柄20を立てて掃くように使用する。そして、部屋の隅などは清掃具を立てた状態で先端部で拭きかつ掃き出すように使用する。さらには、ちりとり32を基台部10から外して掃き寄せた塵や埃をちりとり32に掃き入れて塵などを捨てる。

【0029】また、中央部が曲がりにくくなるので、清掃部を床面などの清掃対象部に押し付けると屈曲部22で曲がり中央部12bから先が一体で揺動可能になり、(b)に示すように、対象面上に箒のようにして移動させることができ、大きなごみの掃き寄せ・掃き出しの用

に供することができる。

【0030】さらには、基台部10にちりとり32を一体に着脱自在に装着すれば、必要に応じてちりとり32を外して、掃き集めたゴミをちりとり32に掃き集めて該ゴミを捨てるのが容易にできる。このようにすれば、別体のちりとりを用意しなくても好きなときにちりとり32を用いることができ、掃除作業性が向上する。ちりとり32は皿状の塵受け部32aと取手部32bからなる。

【0031】本発明の第2実施形態について説明する。この第2実施形態は、図6、図7に示すように、清掃部40の断面形状が少なくとも中央部40bから先端部40cへかけて徐々に細くなるよう形成された清掃部40を有する清掃具において、清掃シート42は、各清掃面（清掃部側面）44に対向した状態で清掃部40に装着されるシート42であり、かつ、装着状態で清掃部先端部に対応する部分から前方部にはシート42が複数重ねられた部分を有する。

【0032】詳細には、第2実施形態に係る清掃部40は、屈曲可能な弾性体でも、屈曲し難い剛体でもいずれでも良い。剛体の場合、清掃部40の基部40aには前記第1実施形態の基台部10を設けずに直接柄20を取り付けることができる。また、清掃部40は図6のように基部40aよりも中央部40bが厚い形状の他、図7に示すように基部40aから中央部40bさらには先端部40cにかけて徐々に細くなる断面三角形形状のものでも良い。

【0033】実施形態2にかかるシート42について説明する。図8は比較例のシート46であって、(a)に示すように、四角形の平面形状を呈した通常のシート46を、(b)に示すように、そのまま清掃部40に両清掃面44を覆う。この比較例においては、清掃時には、清掃部40先端部40cで対象面を拭くと比較例のシート46は該先端部40cに対応する狭い部分46aだけが当たり清掃が良好に行い難くかつシート使用率が低くなる。

【0034】そこで、本発明のシートを、図9～図11に示す。図9のシート42Aは、(a)に示すように、二つ折りにして重なったシートに折り目部分近くからある程度端部側に引っ込んだ箇所にシール部分（熱シールなど）48を設けて、(b)に示すように、シール部分38から先に帯状の重なり部分50を設けてシートが二重になるようにし、シート42Aを清掃部40に装着して清掃中でも重なりが外れないようになっている。図10のシート42Bは、(a)に示すように、重なり部分50を2以上設けた清掃シートであって、シートが2枚以上合わせられている事に相当する。これは、(c)に示すように、シート42Bを何回も折ってその折った部分を上からヒートシール（シール部分48）して止めたものである。(b)に示すように、重なり部分50はは

たき状になって自由に揺動あるいは振り回すようになって、清掃時には、対象面を広い範囲に清掃できる。図11のシート42Cは、(a)に示すように、重なり部分50には切込み52を複数入れてこの重なり部分50をシート幅方向に複数の部分に分けたものである。この重なり部分50は複数の部分が自由に揺動あるいは振りまわらなくなり、より一層清掃時には、対象面を広い範囲に効率よく清掃できる。

【0035】実施形態2にかかる清掃部40は、図6に示した清掃具を用いて、図12～図13に示すように、その基部40aから先端部40cの外周面（清掃面）44に清掃シート42（42A～42Cを含む）を取り付けるシート装着部とし、清掃部40に清掃シート42の留め部54を両側部に少なくとも1つ有しており、該シート留め部54は弾性板状部材56が1以上のスリット58で区画形成された複数の爪部56a間にシート42を挟んで係止するものである。そして、前記装着部に清掃シート42を取付けかつ前記シート留め部54に清掃シート42に係止した状態で対象部の清掃をするようにしたものである。

【0036】前記留め部54は、種々の形態を採り得るものであり、図12(a)、(b)に示すように、留め部54は清掃部40の基部40aに設けた貫通孔60、未貫通穴62に概略筒状の留め部54と一体的なベース64を差込んで接着などで固定することができる。また、図13(a)、(b)に示すように、前記の貫通孔60、未貫通穴62を直接塞ぐよう板状部材56を設けても良い。

【0037】前記板状部材56の例を図14と図15に示す。図14の(a)のように上下に長軸が向いた楕円形状、(b)の円形状、(c)の左右に長軸が向いた楕円形状などでも良く、(d)の六角形状、(e)の八角形状、(f)の概略三角形形状などの多角形状でも良く、(g)の長円形状、(h)のひし形状、(i)の矢印形状、(j)の長方形形状、(k)の下開き扇形、(l)の上開き扇形状など何れの形状でも良い。

【0038】また、板状部材56は、図15の(a)～(c)に示すように、スリット58は上下あるいは左右に非対称形状でも良く、また、(b)に示すように、スリットが幅広に形成されていても良い。そして、スリット58は、上記の場合のように放射状に線が延びるように形成したもの他、(d)に示すように、スリット58を矩形の波型に形成したり（シートを入れやすく引っ掛けやすくするため、内側に向けて爪部曲がっていても良い。）、(e)に示すように一本の横方向のスリット58に松葉状に広がって繋がるスリット58の形状としても良い。

【0039】また、板状部材56の清掃部40への取付けは、図13の(a)に示すように、基部40a側面で

あっても、中央部40bの後面側であっても何れでも良い。図13の(b)に示すように、留め部54は、複数の板状部材56を並べて一体化したような矩形板材としても良い。

【0040】前記板状部材56のベース64は、図16(a)に示すように、前記板状部材56の周縁から連続して筒状に延びる一体成形し、あるいは、(b)に示すように、筒状のベース64に板状部材56を接着・固定し一体化して、図12(a)のように貫通孔60あるいは未貫通孔62に挿着しても良い。また、(c)に示すように、概略三角錐形状のベース64に板状部材56を接着・固定して前記図12(b)の未貫通穴62に嵌め込んで良い。

【0041】なお、本発明は、前記第1実施形態、第2実施形態に限定されないことはもちろんである。例えば図17に示すように、清掃具において、断面槍先状の清掃部12を基台部10に固着し、この基台部10上部に螺子止め構造により脱着自在に柄を設ける。この柄には、一体のものあるいは、各々が螺合により自在に分割できる構造の柄20を用いることができる。また、シート18を板状部材56の放射溝の形成された留め部54に差込んで係止して止めるようにしてもよい。

【0042】また、シートの構造は、前記図8および図9の各例を用いることができる。そして、シートは、各使用目的によって、各種の材質・構造のものを使用できる。例えば、本発明の清掃具をフロア用に用いるときには、通常使用される不織布、例えばスパンレース、ニードルパンチ、スパンボンド、メルトブロー、サーマルボンド(エアスルー、サーモカレンダー)、ケミカルボンド、乾式バルブ等各種製造方法で作られた不織布が用いられる。これに埃や汚れがシートに付いたときの視認性を向上させるために各種の薬剤が塗布、噴霧、含浸等されたものも用いることができる。

【0043】また、絨毯の汚れ取り用にはウェットシートが好適である。例えば、芯鞘構造〜PET(外:低融点)/PET(内:高融点)〜のスパンレース不織布が好適である。鞘部分(外)の素材の融点が110℃程度以下のものでスパンレース、ニードルパンチなどの製法で作られる不織布をエアスルーやヒートエンボスロール、ヒートロールなどで130〜140℃で処理したものが毛羽立ちの抑制の点で好適である。これに対して、前記と同様の不織布を110〜120℃の処理温度したものでは、絨毯用としては、毛羽立抑制・汚れ付きの点で、不十分なものであった。また、絨毯の毛取り用(人の髪の毛、ペットの毛などの取る)には、第1例として材質がポリエステルで、製法がフレンチパイルとニットの一種で、編みあがり後に起毛機でフロント糸を引き出してループ地を作るものを用いることができる。第2例として材質がナイロンで、上記の製法処理を行った後でループを梳くなどして密度を減らして、毛取り効果の向上を

図るものを用いることができる。

【0044】

【発明の効果】以上説明したとおり本発明によれば、清掃シートを無駄なく使用でき、使い易いという効果を奏する。また、清掃シートを用意且つ確実に係止して固定することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施形態にかかる清掃具の外観図で、(a)は全体図、(b)は清掃部付近の要部の屈曲説明図である。

【図2】実施形態の清掃具の要部説明図で、(a)はシート装着説明図、(b)は装着状態図、(c)はちりとり部の着脱説明図である。

【図3】シート取付け部の説明図で、(a)清掃部全体図、(b)はシート留め部の斜視図、(c)は平面図、(d)は他のシート留め部の説明図、(e)はシートの留め方の説明図、(f)はシートを留めた状態の断面説明図である。

【図4】清掃具の使用状態説明図である。

【図5】(a)〜(e)は清掃部の他の各実施形態の説明図である。

【図6】(a)、(b)実施形態2にかかる清掃具の一例を説明する側面図、正面図である。

【図7】(a)、(b)実施形態2にかかる清掃具の他の例を説明する側面図、正面図である。

【図8】(a)は比較例の未加工シートの説明図、

(b)は比較例シートの清掃部装着状態説明図である。

【図9】(a)は実施形態2に係る一例のシートの説明図、(b)は該シートの清掃部装着状態説明図である。

【図10】(a)は実施形態2に係る他の例のシートの説明図、(b)は該シートの清掃部装着状態説明図である。

【図11】(a)は実施形態2に係る他の例のシートの説明図、(b)は該シートの清掃部装着状態説明図である。

【図12】(a)、(b)はそれぞれ実施形態2に係る清掃部のシート留め部の一例の説明図である。

【図13】(a)、(b)はそれぞれ実施形態2に係る清掃部のシート留め部の他の例の説明図である。

【図14】(a)〜(l)はそれぞれシート留め部の板状部材の各例の説明図である。

【図15】(a)〜(e)はそれぞれシート留め部の板状部材のさらに各例の説明図である。

【図16】(a)〜(c)はシート留め部の各例の説明図である。

【図17】本発明のさらに他の実施形態にかかる清掃具の説明図であり、(a)は全体説明図、(b)は要部説明図である。

【符号の説明】

10 基台部

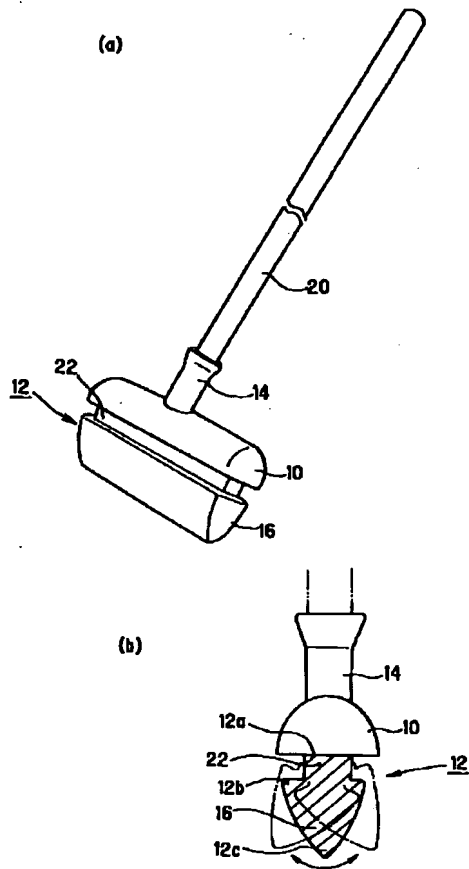
11

12

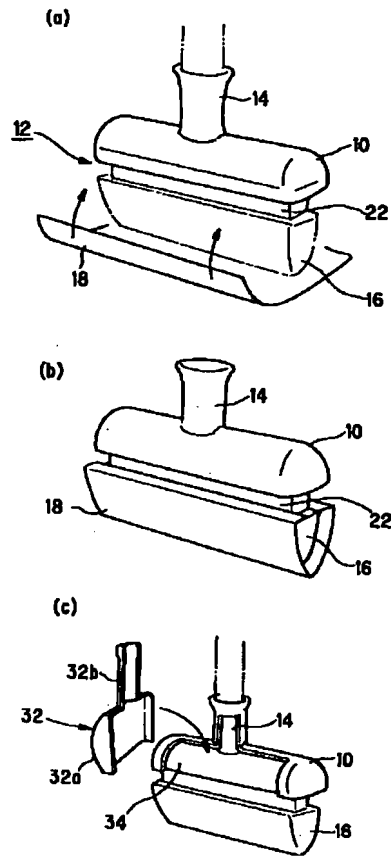
- 12 清掃部
 16 装着部
 18 清掃用のシート
 22 屈曲部
 24 シート留め部
 26 突起
 28 凹部
 40 清掃部
 42、42A、42B、42C シート

- 48 シール部分
 50 重なり部分
 52 切り込み
 54 シート留め部
 56 弾性板状部材
 58 スリット
 60 貫通孔
 62 未貫通孔
 64 ベース

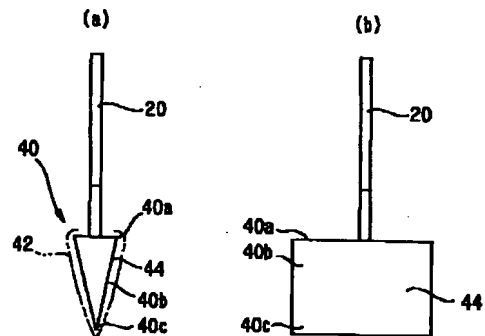
【図1】



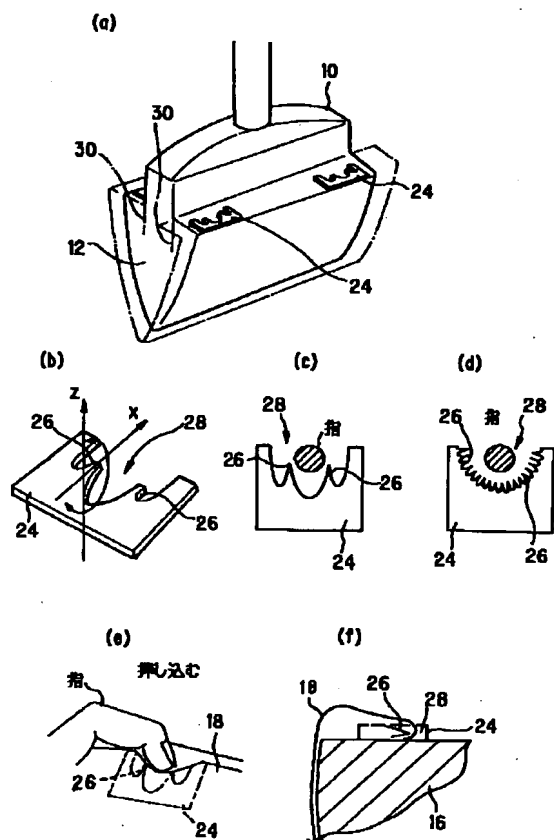
【図2】



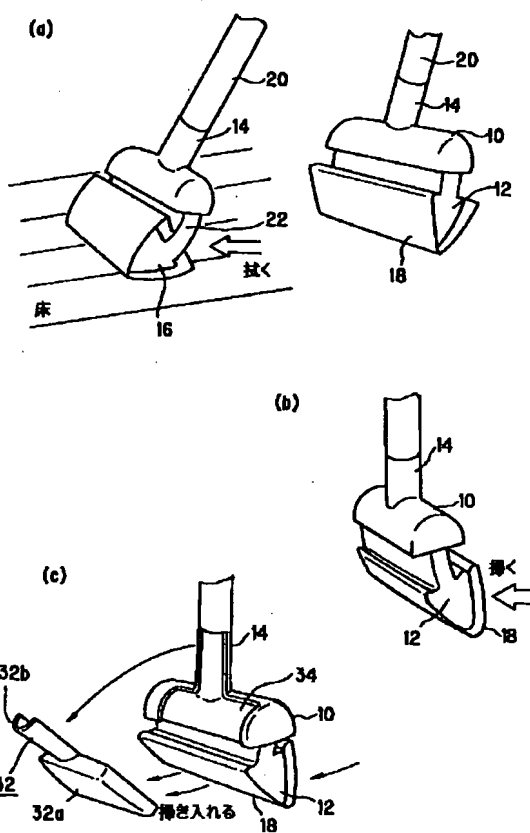
【図7】



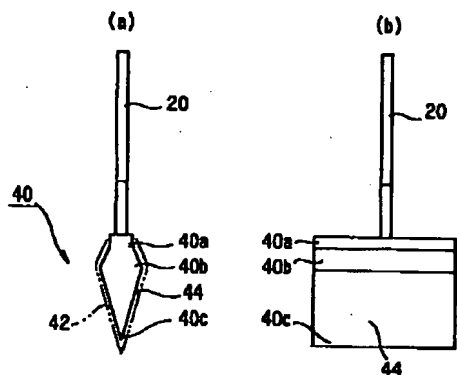
【図3】



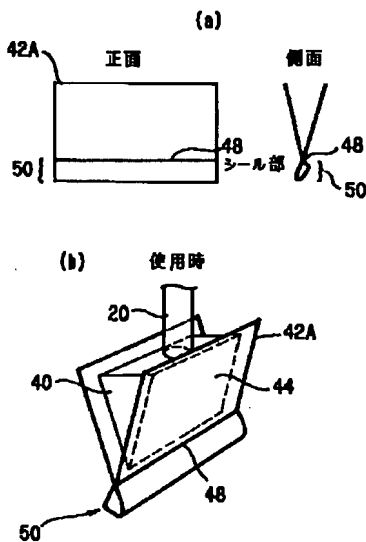
【図4】



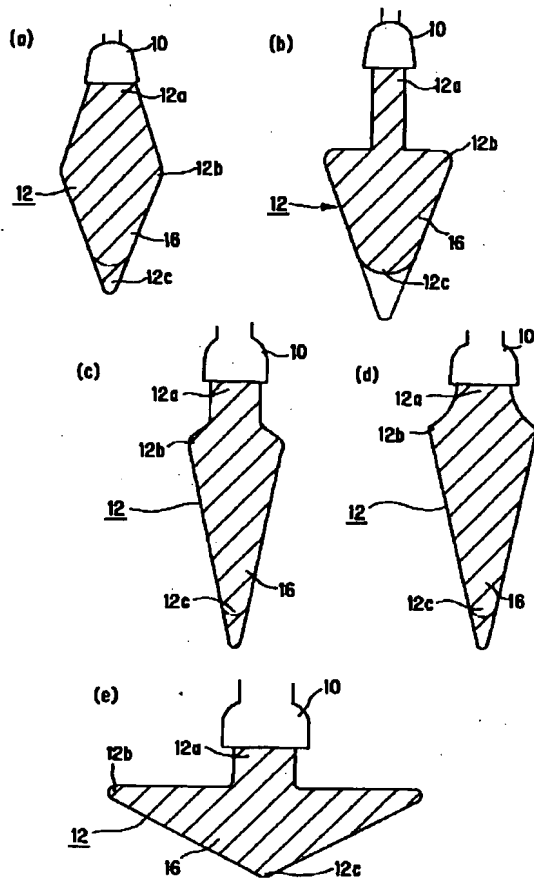
【図6】



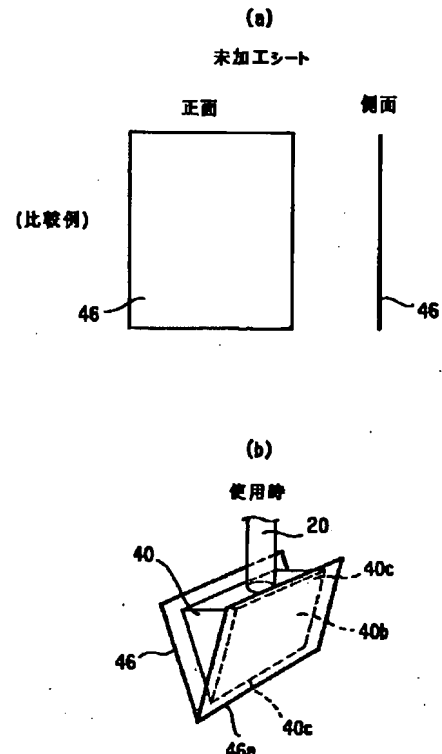
【図9】



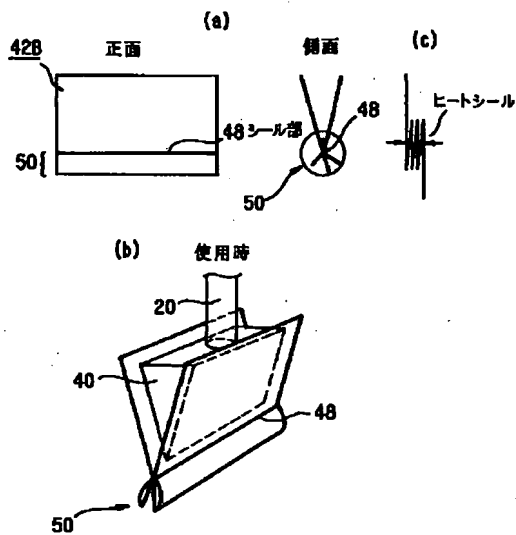
【図5】



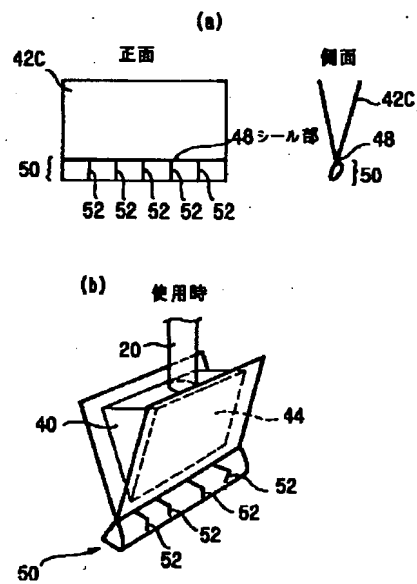
【図8】



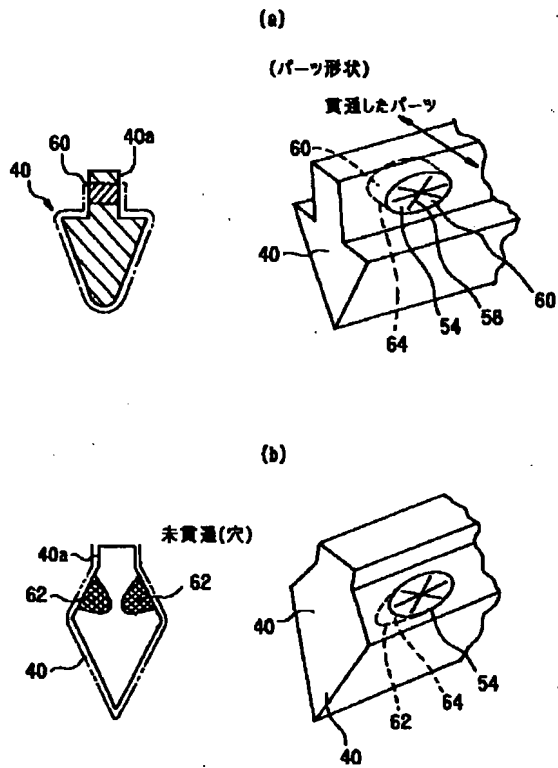
【図10】



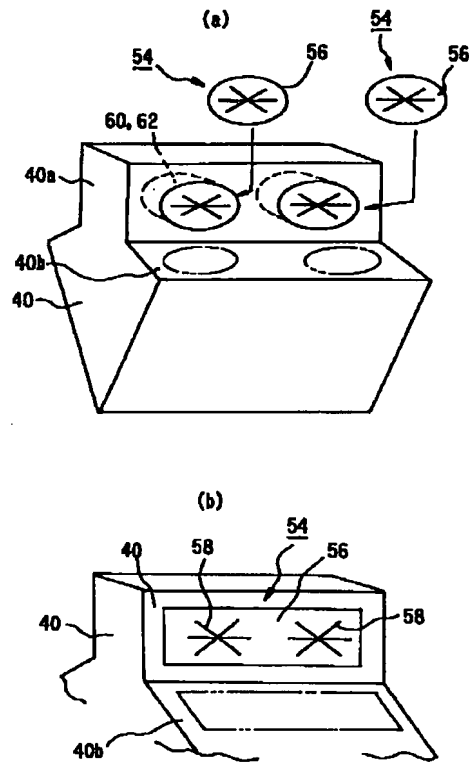
【図11】



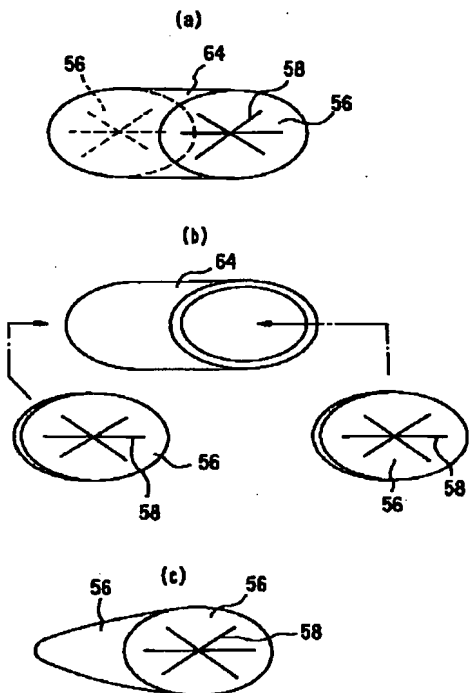
【図12】



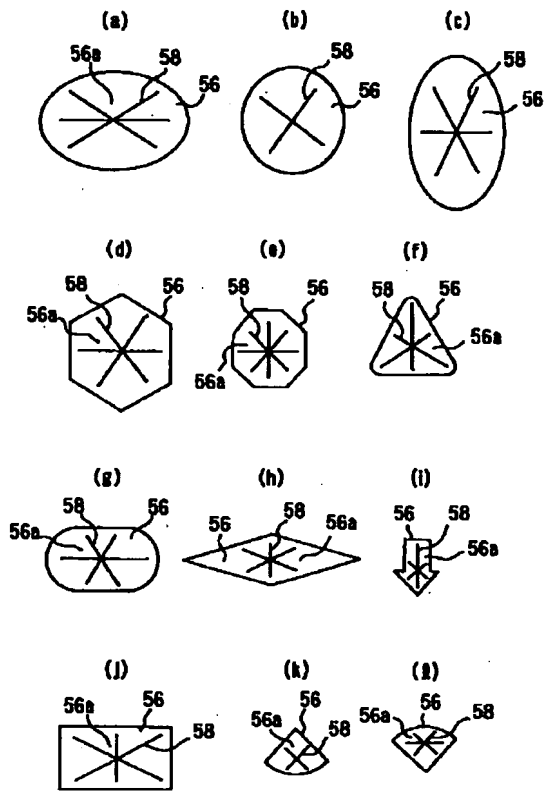
【図13】



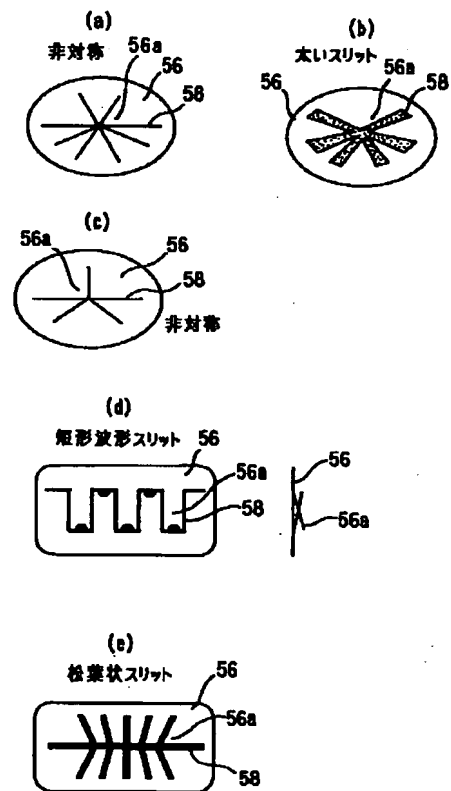
【図16】



【図14】



【図15】



【図17】

